

鼠径ヘルニアについて

今回は日本外科学会専門医の宮本章仁先生に「鼠径ヘルニア」について伺いました。



▲宮本 章仁 医師

鼠径ヘルニアとは一般に脱腸と呼ばれる病気で、腹膜や腸の一部が皮膚の下に出てくる状態です。「ヘルニア」は先天的・後天的な原因で生じた組織の隙間に、臓器や組織が脱出・嵌入している状態を指し、生体のさまざまなところで発生します。

鼠径部のヘルニアには鼠径靭帯頭側で鼠径部に脱出する鼠径ヘルニアと、鼠径靭帯直下で脱出する大腿ヘルニアがある。

り、さらに鼠径ヘルニアはヘルニア門の部位により外鼠径ヘルニアと内鼠径ヘルニアに分類されます。

外鼠径ヘルニアの頻度が最も高く約70%を占めます。通常、ヘルニアは

圧迫により還納されま

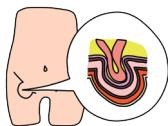
すが、ヘルニア内容が大きくヘルニア門が相対的に狭いため還納できない場合があり、これを非還納性ヘルニアといいます。

非還納性ヘルニアのうち、膨隆以外の症状を呈し、急に発症し、自還

納できないものを嵌頓ヘルニアとよび、このうち内容臓器の血流障害を伴う絞扼性ヘルニアは緊急手術の対象です。

鼠径ヘルニアの手術は、ヘルニア門の閉鎖と鼠径管後壁の補強を目的として行われ、術式はヘルニア門への到達方法によって大きく前方アプローチと後方アプローチに分けられます。

当院では主に前方アプローチのメッシュ・プラグ法を行っています。バドミントンの羽根の形をしたプラグを、腸が出てくる穴に入れて腸が出てくるのを防ぎ、さらにメッシュのシートを上か



▲鼠径ヘルニア

ら当てて補強します。プラグとシート型メッシュでヘルニア門を2重に補強する方法です。

また、メッシュ・プラグ法は痛みが少なく回復が早いので、短期間で日常生活に戻ることが出来ます。患者さんの負担を少なくするため、丁寧な術後ケアにも力を入れております。

鼠径ヘルニアでお困りの方は、かかりつけの先生や当院外科までお気軽にご相談ください。



社会福祉法人
恩賜財団

済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1-6

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp>

0898-47-2500

